

〔和漢三才圖會灌木八十四〕百日紅 怡痒樹 紫微花

按、樹似柘榴木而無皮、葉似夏黃櫨而冬凋落、七月初至九月有花、淺紫紅色映山谷、故名百日紅、隨結子攢簇不熟而凋、插其枝能活。

猿滑 猴刺脫 俗云左留須便利

按、樹葉同百日紅而葉略厚、四時不凋、未見花實、其樹無皮、甚滑而猿猴亦不得登、故呼名猿滑、與百日紅、一類二種也。百日紅葉凋有花

四時不凋無花

二本同稠堅、酒家用爲搾木。

〔夫木和歌抄二十九〕猿滑

足引の山のかけちのさるなめりすべらかにてもよをわたらばや

〔北邊隨筆二〕猿滑

いま世に猿すべりといふ木は、百日紅といふ、これをば猿なめりとぞいひけらし、夫木集に、猿滑○歌略とみゆゑかれども、此末句、すべらかにてもとあるはさるすべりすべらかとつゝくべき語勢とおぼゆれば、滑といふ字は、もと義をもてかきたりしを、萬葉集に、常滑などかけるたぐひに見て、後人さかしらになめりと書きあやまれるにやとおぼし。

石榴

〔本草和名十十七〕安石榴楊玄操 花名延年花花可愛人多 一名塗林、一名若榴已上二名出兼名苑 和名佐久呂。

〔倭名類聚抄十七〕石榴 兼名苑云、若榴音留和名佐久呂、今按 一名安若榴音留和名佐久呂、石榴正作楮見四聲字苑 也。

〔箋注倭名類聚抄九〕按說文無褚榴字、故南都賦借若留字爲之、褚榴字始見廣雅、云褚榴柰也、然南都賦注引廣雅曰、石留若榴也、李善所見廣雅猶不作褚、今本廣雅從木者、蓋後人改寫從俗也、源君據四聲字苑以褚爲正字、非是。中 所引蓋兼名苑注文、廣本若榴下有一名安若榴五字、按本草和名云、安石榴一名塗林、一名若榴、已上二名出兼名苑、不載安若榴之名、齊民要術、安石榴引陸機鄴中記、若榴引抱朴子、石榴引廬山記京口記載之、亦無安若榴之名、恐是安石榴之訛、初學記引埤